

第5回 トラック輸送における取引環境・労働時間改善広島県地方協議会 議 事 録

1. 日 時：平成 28 年 12 月 16 日（金） 13 時 30 分～15 時 30 分

2. 場 所：ホテルメルパルク広島 6F 「平成」

3. 出席者：

若 井 具 宜	経営コンサルタント（広島県立大学 名誉教授）
三 井 正 信	広島大学大学院 社会科学研究科 教授
田 中 和 志	日本通運株式会社 執行役員 広島支店長
岩 田 泰 幸	福山通運株式会社 専務執行役員 営業本部副本部長兼経営戦略室長代理
竹 本 昭 法	芸北急送株式会社 代表取締役社長
沖 藤 克 治	沖藤運送株式会社 代表取締役社長
木 原 学	マツダ株式会社 生産管理・物流本部長代理
仁 城 明 彦	全国農業協同組合連合会 広島県本部 J A 担当部長
宮 田 秀 雄	株式会社福屋 物流部長
福 島 淳 仁	株式会社サンエス 管理本部人事部次長
田 中 一 範	広島県冷蔵倉庫協会 会長
岩 本 和 則	公益社団法人広島県トラック協会 専務理事
小 坂 真 弘	日本 PMI コンサルティング株式会社 代表取締役社長
三 浦 英 次	広島県交通運輸産業労働組合協議会 議長
奥 田 正 雄	中国経済産業局 産業部長代理
橋 本 和 隆	広島労働局 局長代理
小 畠 博 文	中国運輸局 局長代理
西 田 末 廣	中国運輸局広島運輸支局 支局長

4. 開会挨拶：

（広島労働局：橋本局長代理）

ただいまご紹介に預かりました広島労働局労働基準部長の橋本でございます。委員の皆様方におかれましては、年末の大変お忙しい中、本協議会にご出席を賜り誠にありがとうございます。

本日の協議会では、マツダ株式会社様のご協力を頂きながら進めておりますパイロット事業の中間報告の説明があるとお伺いしております。本事業の予算につきましては大きく分けまして厚生労働省分と国土交通省分とがありますが、この広島においては国土交通省分が割り当てられていると承知しております。マツダ様のご協力を得てGPSを活用したトラックの運行管理システムを中心として、パイロット事業を進めさせて頂いているところでございます。本事業で国土交通省分の予

算が割り当てられる理由を私なりに考えたところによりますと、このトラックのシステムが広がっていけば、トラック業界において広島だけではなく全国で滞りなく物が流れていく。そのことによって物流の改革が起こり、企業が活性化するであろうと思います。皆さまご存知のとおり、この広島県の有効求人倍率は全国で6番目であり、現在は高水準となっております。広島県全体でそのような状況がありますので、人手不足の状況が続いている中、トラック業界でもなかなか人が集まらない状況であると聞いております。このGPSを活用したシステムが広がれば、運輸業界を取り巻く取引環境や労働環境が改善されて、運輸業界にいい人が集まる。また、運輸業が活性化していき、全国的に見れば好調な経済を持続していくのではないかと確信をしております。そのためにこのパイロット事業はとても重要なものであると考えております。後ほど中間報告をさせて頂いて、皆様から新しいご意見を頂ければありがたいと思っております。

前回、協議会においてお伝えさせて頂いたのですが、改正労働基準法の審議状況について簡単にご説明させて頂きたいと思っております。改正労働基準法につきましては、前回の通常国会から継続審議となっておりますが、臨時国会でも残念ながら審議されず、継続審議となっております。この改正法につきましては我々労働局といたしましても審議状況を見守っているところであり、成立した場合には皆さまがその改正内容について知らないことが無いようしっかりと周知して参りたいと思っております。また、この協議会でもご報告していきたいと思っておりますので、何卒ご協力のほどよろしくお願い致します。では、本日の協議会、何卒よろしくお願い致します。

5. 配布資料の確認：

- (1) 議事次第
- (2) 委員名簿
- (3) 出席者名簿および配席図
- (4) 資料1 トラック輸送における長時間労働抑制に向けたパイロット事業（中間報告）
- (5) 資料2 パイロット事業と今後の協議会の進め方（スケジュール）
- (6) 資料3 広島県トラック協会の取り組み
- (7) 資料4 第4回トラック輸送取引環境・労働時間改善中央協議会の概要

6. 議題：

- (1) 平成28年度 パイロット事業（実証実験）について
- (2) 今後の進め方（スケジュール）について
- (3) その他

7. 議題の内容：

- (1) 平成28年度 パイロット事業（実証実験）について
資料1 トラック輸送における長時間労働抑制に向けたパイロット事業（中間報告）
日本 PMI コンサルティング株式会社 省略

(田中委員)

ただいまの報告をお聞きして、ある程度仕組みができたものについての検証ですので、特にはないのですが、強いて言えば方向性として、GPSを使用した輸送によって手待ち時間等を圧縮することなのですが、単純に広島と防府の道路状況を考えた場合に、例えば一般道を使うであるとか高速道路を使うであるとか、またそのコストはどこが負担するのかなどそのようなところの検討というのはどうなのかと少し感じたところであります。

(岩田委員)

福山通運の岩田でございます。特にはございませんが、附帯作業と待機時間について改善の余地がまだあるのか無いのかというところについてはご理解致しました。

(竹本委員)

芸北急送の竹本です。我々運送業者は、今、トラックにデジタコを付けて時間管理をしているところですが、このGPSの監視システムによって待機や附帯作業の時間というものがはっきり掴まれるようになれば、このような物を使って他の輸送形態に活用できれば大きく改善するのではないかと思います。

(沖藤委員)

沖藤運送の沖藤です。このGPSシステムについて疑問を持ったのは、標準時間が設定されているのかということです。交通は生き物ですから、いろんな事故あるいはタイムラグが出てくる可能性が高く、そのあたりの修正はどのように対応していくのかというところが気になっております。

(岩本委員)

トラック協会の岩本です。この実証実験については先ほどご説明がありましたが、着荷主、発荷主、運送事業者等の労働時間の改善に関わる事案であります。このGPS管理の下で実運送の実際の記録（デジタコ）とGPS管理のデータとの合致がされるのか。実運送の時間が事業者の労働時間として改善基準告示の対象になりますので、そこを実運送側がいかに時間管理できているかということであろうかと思います。

(木原委員)

マツダの木原です。本日のご説明して頂いた内容を一緒にやっておりますので、皆様のご意見等を踏まえ、これからの活動に活かしていきたいと思っております。ご指摘がありましたデジタコとの関係等もありますし、実際にGPSはいろいろな形で使われていると思いますが、これが特に優れているかということではありませんし、実際に使おうとするといろいろな不具合等もございましたが、その中で提案をしながら使いやすいものにしていくということを考えながら取り組ませて頂きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

(仁城委員)

仁城でございます。非常に完成されたシステムであると思いました。さらにGPS管理システムによってどこまで改善していけるのかを楽しみにしております。

(宮田委員)

福屋の宮田でございます。我々が平素取り扱っている荷物とは全く違うものでございますので、なかなかピンとこないところもございましたが、やはりマツダ様の同一の会社の横持ちということでございますので、大変システム化されているということはよく理解できたところでございます。今度はこれを同一社内の横持ちではなく他社であり他業種でどうなのかというところが次の大きな課題ではないかと思えます。特に附帯業務の問題が一番の問題であると考えております。一点、お伺いしたいのですが、運賃の中に附帯業務というのはどこからどこまでがどのような形で入っているのかをお聞きしてもよろしいでしょうか。

(日本PMIコンサルティング(株) 小坂主席コンサルタント)

運賃の中に含まれる附帯作業には、例えば平ボディ車におけるシート掛け、輸送中の増締め等の運送に付随する業務のみで、それら以外はほとんどが附帯作業に該当し、本来料金として収受すべき位置付けになります。積込み・取卸し作業は、運賃に含まれるような商慣習があり、「運賃」といえば、積込み作業→輸送→取卸し作業と全てが運賃というような捉え方がされております。なお、この点につきましては、国土交通省の「トラック運送業における書面化推進ガイドライン」も同様の見解です。

(福島委員)

株式会社サンエスで人事を担当しております福島と申します。ただいまの説明で面白いと思えたのは、皆様が発言されておりますようにGPSシステムによる管理です。GPSシステムを使用するとデータが数値として表れてきます。待機時間、附帯作業時間等の時間がデータとして出てくれば、そのデータを基に検討することができ、このデータが提示されれば具体的に発荷主さん、着荷主さんとも検討していく上での根拠数値になりますので非常に面白いと思いました。

(田中委員)

冷蔵倉庫協会の田中でございます。二点ほど、まず一点はドライバーの労働時間の抑制をするという前提においてこのGPSを使って作業分配においてトラックと作業をどうマッチングさせるかというところを今後、進めていく中でまた詳しく教えて頂きたいと思えます。そこでマッチングしたトラックと作業の中で作業内容の検証、これですべての時間がどうGPSを使ってマッチングがうまくいって、どう作業してトラックが出る、この時間がどれだけ縮まったかが分かればうれしいなと思って聞いておりました。二点目は、非常に良いシステムであると思うのですが、果たして中小企業がこのシステムを導入できるだけの価格面のハードルがどの程度なのかということも今後ま

た教えて頂ければと思います。ここ一つで終わってしまっただけでは意味がないと思いますのでそのあたりまで突っ込んで教えて頂けたらと思います。

(三浦委員)

労働組合の三浦です。今のところ問題点が無いようですので特にはありません。

(2) パイロット事業と今後の協議会の進め方（スケジュール） 広島運輸支局 省略

(3) 広島県トラック協会の取り組み 広島県トラック協会 省略

第4回トラック輸送取引環境・労働時間改善中央協議会の概要 広島運輸支局 省略

(三井先生)

それでは、最後に荷主団体、トラック事業者、関係団体の各代表者1名ずつに全体についてご意見を頂きたいと思います。

(仁城委員)

先ほど、資料によるご説明をしていただきましたが、やはりきっちり運んでいただくということになれば、運賃等の料金体系の目安がある方が今後、ますます流通において大事なことであると思います。

(田中委員)

今回のパイロット事業について、マツダさんの関係の定時定型的な、しかも実運送する業者のある程度固定的でしかもGPSを活用した同じシステムでという中でございますので非常に良い内容で、よく改善されるのではないかとある程度予想がつきます。問題はやはりその枠内に入らない輸送、システムを入れたくても入れられない輸送についてどのように改善していくかということが課題であると思います。

(三浦委員)

直接関係はないのですが、労働組合で面白い現象がありまして、今年の春闘で賃上げが全体的によかったのですが、その中で大体、大手企業の方が一般的には良いのですが、今年は中小の運送会社が積極的に賃上げをされている。実は中身をよく見てみますと消極的賃上げでして、さらに突っ込んでいくと人手不足で賃上げしないとどうしようもないという状況で、トラック業界の人手不足の違う表れ方をしておりました。

(三井先生)

最後に全体の総括ということで若井先生、よろしくお願い致します。

（若井先生）

若井です。よろしくお願い致します。今回、コンサルタントの方がGPSを使ったパイロット事業という中間報告で、皆様もご関心がありましたようでしたが、このあたりについては、また3月に報告を聞いてからの方が、実感が湧いて質問も出ると思います。私の方から一つコンサルタントの方に質問があるのですがよろしいでしょうか。手待ち時間でばらつきがあるのが問題であるということでしたが、このばらつきは何で測ったばらつきなのでしょう。

（日本PMIコンサルティング（株） 小坂主席コンサルタント）

調査データは、一週間程度の運行におけるデータを収集し、積み込み・取卸し作業に要する時間、待機に関する時間などそれぞれ所要時間を把握したものであり、附随作業、待機時間は出発時間帯により、1～2時間程度のバラツキの存在が確認されました。この点、ドライバーが作業開始時にGPSの端末のボタンを押していますが、正確に押されていない可能性もございますので、実証実験期間中にバラツキの原因の特定、データの正確性についても検証する予定です。

（若井先生）

分かりました。作業の時間帯でばらつきが生じるということですね。それでは私の方から感想を言わせて頂きます。前回欠席させて頂いたのですが、事務局から送って頂いた資料を読んで面白いと思いましたが、資料の中で国土交通省さんがアンケートをしたものの中で、適正運賃についてしっかり収受されている事業者さんの6割くらいは取引先に運賃の交渉をしているという回答がありました。私は非常に興味がありまして、これはトラック業界に限らないと思うのですが、日本の事業慣行の特徴として多少不満があっても黙っておく、角を立てないようにしておくということがよくあると思います。このアンケート結果をみて、回答された方の6割が運賃を交渉してしっかり頂いており、やはり主張すべきところはしっかり主張して交渉しないといけないと強く感じました。こういうことは両者だけでは大変かもしれないので、行政関係や関係団体のサポートも受けながらしっかり主張や交渉をするようにして頂きたいと思います。

最後にもう一つ、業界全体を活性化していくためには、生産性を上げていかなければいけない。生産性と言うと主には労働生産性を指しますから労働時間当たりの給料等で図ったものが生産性であり、安倍内閣のアベノミクスでも三本の矢の三本目の成長戦略がうまくいっていないのではいかという声もありますが、経済成長には物価を上げないといけないと思います。物価を上げることが賃金や生産性を上げることにつながり、いずれにしても先ほども触れましたが適正な運賃を頂くということは大事であると思いますので、ぜひ適正な運賃を頂いて値上げもして頂くというように循環していけばと思います。

次回、第6回協議会は平成29年3月16日 同刻より同場所にて開催とさせていただきます。

以上